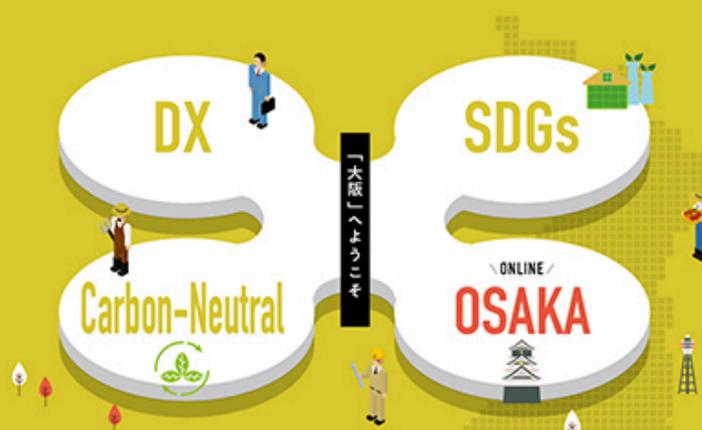


2021年12月2日

サステナブルな社会を生きる企業のDXとは～ FUJITSUファミリー会秋季大会レポート～

2021
秋季大会
11/24(水) - 26(金)



サステナブルな社会を生きる企業のDXとは

目次

- 企業に求められるSDGs対応を異業種交流で考える「FUJITSUファミリー会」
- 富士通はサステナブルな社会に向けて、カルチャー変革にどう「本気で」取り組んでいるのか

- ▶ 業種リーダーのSDGsの取り組みとは
- ▶ 2030年に向けた私たちの舵の切り方

企業に求められるSDGs対応を異業種交流で考える「FUJITSUファミリー会」

FUJITSUファミリー会（以後ファミリー会）は、今年で57年目を迎える国内最大の情報通信システムユーザー団体です。2021年10月現在で約3,900企業が在籍し、様々な業種の会員交流を通して、それぞれの課題解決やビジネス成長に向けた最新の情報共有をはじめ、DX人材の育成も目的として活動しています。

ファミリー会の年度最大のイベントである「秋季大会」を、2021年11月24～26日の3日間にわたってオンラインで開催しました。「サステナブルな社会を生きる企業のDXとは」をテーマに、SDGs達成やESGにおいて企業がとるべきDXについて情報交換を行いました。そのポイントを、ファミリー会運営事務局がレポートします。

ファミリー会活動（3つの柱）

会員企業様の課題解決、ビジネスの成長に貢献するとともにその基盤となる人材育成をご支援します

最新情報の収集

情報技術に関するホットな情報や、システム事例・適用事例など、会員にとって有益な情報が入手可能。

異業種交流

会員相互の自由な異業種交流、研鑽を通じて視野の拡大、問題解決のヒントを得ることができる。

人材育成

少人数制による研究活動を通して、会員の人材育成を支援、人的ネットワークを推進。

Copyright 2021 FUJITSU LIMITED

図1 FUJITSUファミリー会活動

富士通はサステナブルな社会に向けて、カルチャー変革にどう「本気で」取り組んでいるのか

SDGsという言葉が社会に広く浸透し、ビジネスの世界でもSDGsの達成やESGへの貢献が求められています。しかし一方で、社員からは自分たちの業務との関係性が見えにくく、サステナブルな世界をどう実現していけばよいのか分からないという声も聞きます。富士通も同様の課題を持っていますが、どのようにして乗り越えようとしているのでしょうか。現在進行中の取り組みについて、まずは、富士通執行役員常務/CIO/CDXO 福田 譲さんの講演をレポートします。



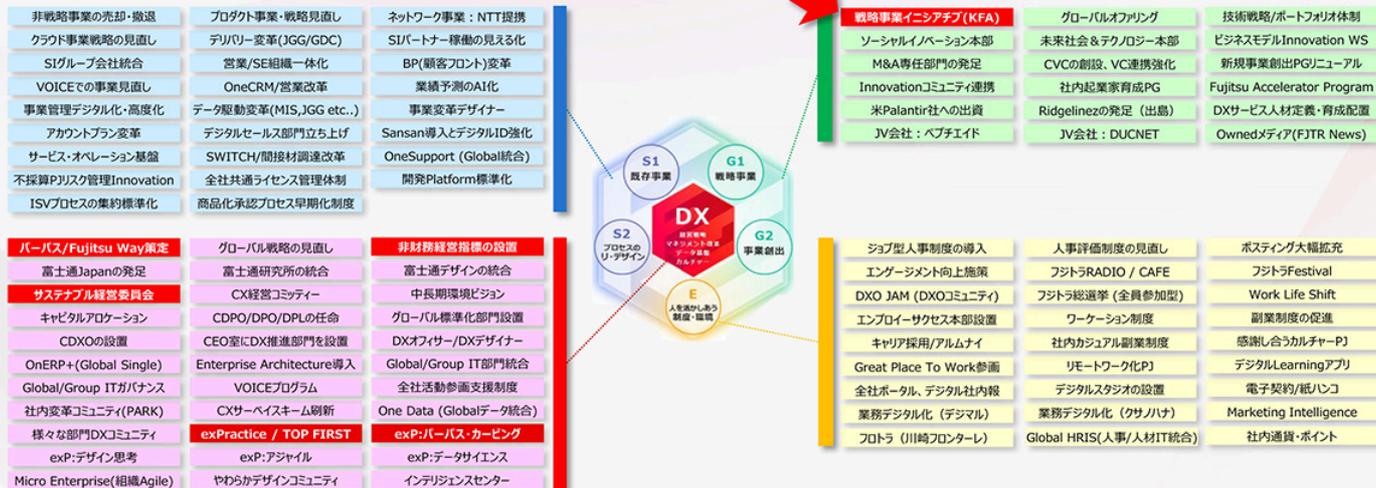
富士通株式会社 執行役員常務/CIO/CDXO 福田 譲さん

「富士通では、2030年のサステナブルな世界を実現させるためには、富士通自身も大きな変革が不可欠であると考え、2010年10月、全社DXプロジェクト『フジトラ』を開始しました。ここでいうDXとはデータやデジタル技術活用のことだけでなく、自らの業務プロセスや組織、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することです。『フジトラ』では現在までに約150ものテーマの改革に取り組んでいます」(図2)。

約150

テーマ

アップデート・分類/分析・優先順位付けを3か月ごとに実施
 CDXO/CEO、DXO、フジトラ・ステアリングコミティによる全体の把握とガイダンス
 →3か月に一度、富士通をアップデート



※富士通が取り組んでいる変革取り組みテーマの例：「経営イニシアチブ」、「部門イニシアチブ」、「フジトラ・イニシアチブ」、「FUJITracker」等の合計
 ※既に完了したもの、現在進行形のもの、試行中/検討中ものなどを含む
 ※2021年9月時点

図2 フジトラでの変革取り組みテーマ例

「富士通の事業をSDGs・ESGに近づけるため、事業ポートフォリオとビジネスモデル変革にも取り組んでいます。先月、サステナブルな世界の実現を目指す事業ブランド「Fujitsu Uvance」を策定しました。Uvanceは、あらゆる (Universal) ものをサステナブルな方向に前進 (Advance) させるという2つの単語を合わせた造語です。2030年のサステナブルな世界を想像した際、世界が直面しているであろう社会課題から7つのKey Focus Area (重点注力分野) に絞り、事業を進めると決意しました」 (図3)。

サステナブルな世界を実現する
7 Key Focus Areas

Vertical Areas

社会課題を解決する
クロスインダストリーの4分野



**Sustainable
Manufacturing**



**Consumer
Experience**



**Healthy
Living**



**Trusted
Society**

Horizontal Areas

クロスインダストリーを支える
3つのテクノロジー基盤



**Digital
Shifts**



**Business
Applications**



**Hybrid
IT**

図3 7つのKey Focus Area（重点注力分野）

「富士通は昨年、『イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしてい
く』という企業パーパス（存在意義）を掲げました。このパーパスのもと、7つのKey Focus Areaに
代表する社会課題を解決するには、社員ひとりひとりがパーパスを持ち自己認識することが重要と
考え、各個人のパーパスを対話を通じて掘り当て言葉にする『パーパス・カービング』のプログラ
ムを、全社員13万人に実施中です（関連記事：[DX実現のカギは、〈個人のパーパス〉](#)）。社員ひとり
ひとりのパーパスと富士通のパーパスとの重なり合いが、変革への原動力になるという想いから
実施しています。」

なぜ13万人全員に実施するか理由について、福田さんは「気候変動やエネルギー問題など様々な
課題が深刻な今の時代、ここで富士通の根本を変えないと、20年後の富士通はあるかどうか分
からない。同時多発的に様々な変革を行っていくには、経営陣だけが変わるのでは足りない。全
員で変えていきたい」と力強く話していたのが印象的でした。

業種リーダーのSDGsの取り組みとは

ファミリ会では、様々な企業のサステナブルな取り組みについても知ることができる点が魅力で
す。秋季大会では会員企業の代表として業態の異なる4社の事例発表を行いました。そのうちSDGs
実現に向けた取り組みが進まれている2社についてご紹介します。

JFEシステムズ株式会社

JFEシステムズは、川崎製鉄株式会社（現JFEスチール株式会社）の情報システム部門から独立し設立

されたユーザ系情報システム会社です。「JFEグループのDX戦略～巨大製鉄所の生産性向上とカーボンニュートラルへの挑戦～」をテーマに、代表取締役社長 大木哲夫さんにご講演いただきました。

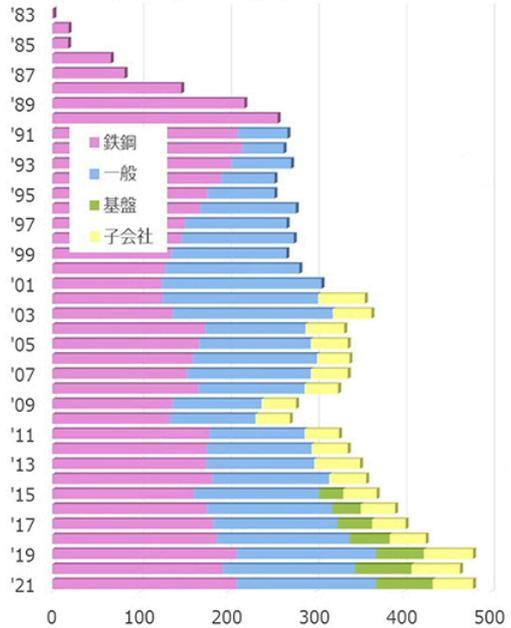
JFEスチールグループを含む、製造流通業界向けのデジタルトランスフォーメーションの推進部署としてDX推進部を新設(今年4月)。最新のデジタル技術の導入と豊富なデータ・ノウハウ・技術を最大限に活用し、グループ全体で事業変革を推進、新たな付加価値商品やサービスの創出、環境変化のリスクを成長機会へと繋げるなど多角的な取り組みを行っています。

また、カーボンニュートラルについては、「JFEグループ環境経営ビジョン2050」を掲げ、“2050年カーボンニュートラル”（2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする）を目指して、グループ全体で長期的な挑戦をし続けるとのことでした。



JFEシステムズ 会社概要 -2.沿革

● 当社グループ売上高推移 (億円・2021年度は見通し)



年度	出来事
1983	川鉄システム開発(現JFEシステムズ)株式会社設立
1986-	川崎製鉄(現JFEスチール)株式会社からシステム部門を順次受入れ
2001	東京証券取引所市場 第二部上場
2002	川商インフォメーションテクノロジー(現 JFEコムサービス)子会社化
2011	株式会社エクサ からJFEスチール向け開発・保守事業を承継
2018	首都圏4拠点を集約し、浜松町に本社を移転
2019	株式会社アイエイエフコンサルティン グを子会社化

Good Relation, Good Solution Copyright © JFE Systems, Inc. All rights reserved.

JFEシステムズ株式会社 代表取締役社長 大木哲夫さん

株式会社高島屋

持続可能なビジネスを続けられるかという危機感は、百貨店業界でも同様です。「百貨店危機—高島屋は持続可能であり続けられるか」をテーマに、高島屋の執行役員 大川さんにご講演いただきました。

多くの百貨店では、大量の電力消費、廃棄物（廃プラスチック・食品ロス）、アパレル商品の過剰在庫が重大な事業リスクとして認識されています。百貨店業界が抱えるこれら構造的課題を直視し、改革断行による持続可能な業態への転換が急務です。

高島屋は創業当時より、お客様の大切な着物や帯が綺麗に長く着られるようにと、和装の染み抜きや仕立て直しといった技術やサービスを提供してきました。この様に根底として流れる伝統的な意識を反映した、衣料品の回収・再生・販売の循環型スキームDepart de Loop [略して“デパルー”（大

川さんはこの“デパルー”を一般用語として広めたいとのこと)]を構築。売りっぱなしで終わることなく、再生し続ける仕組みを提供しています。再生可能エネルギーの導入や生ごみのメタンガス発電への活用など、事業活動を通じて様々な取り組みを提案し、サステナブルなビジネスモデルへの変革を推進しています。



1. 高島屋グループ

【沿革】

- ・1831年 創業
- ・1899年 フランス・リヨン出張所設置
- ・1900年 パリ万博博覧会へ出品受賞
- ・2021年 創業190周年

【経営理念】

・「いつも、人から。」

【事業概要】

- ・百貨店業、不動産開発・運営事業、空間設計・内装事業など、国内外で幅広い事業を展開
- ・国内百貨店17店舗、海外4店舗
- ・営業収益 6,809億円 (20年度 連結業績)

1831 創業

1831年、高島屋創業(京都府伏見区) 初代高島屋七郎、京都で百貨店事業を始める



1899 明治32年

フランス・リヨン出張所設置

1900 明治33年

横浜高島屋開設(横浜市井田区) パリ万博博覧会へ出品受賞



高島屋グループ経営理念

「いつも、人から。」

タカシマヤグループは、「人を信じ、人を愛し、人につくす」ことを大切に、社会に貢献します。

	営業収益	営業利益
百貨店業	5,705	△213
百貨店外業	370	59
食料業	163	43
建設業	191	△10
その他	381	15
調整額	—	△28
連結経営収益合計上乗	6,809	△135



株式会社高島屋 執行役員 情報システム部長 大川秋生さん

2030年に向けた私たちの舵の切り方

秋季大会ではこのように、様々な会員の取り組み事例発表のほか、最終日の3日目には、研究分科会の入賞報告も行いました。異業種の会員どうしが共通テーマについて1年間研究を重ねた成果の発表です。これらの研究は、DX人材の育成に大きく貢献していると評判の高いプログラムです。SDGs・DXについての最新情報を知り、様々な業種との交流を通じた活動が可能なファミリー会。ファミリー会会員と富士通との関係性について、福田さんは次のように述べています。「時代の変曲点である今、皆さまの本業をどう変えていき、そこに富士通のテクノロジーをどう掛け算し、一緒に社会にインパクトを与えていくのか。ともに考え、お互いの事業を支えあう関係性を一層高めていきましょう」

持続可能な社会の実現は、1社だけでは達成できるものではありません。ぜひファミリー会に入会いただき、ともに持続可能な社会をつくりあげていきましょう。



この記事を書いたのは

FUJITSUファミリー会 事務局（富士通株式会社 JPM統括部）

川瀬俊之、島田果苗

国内最大規模のICTユーザ会「FUJITSU ファミリー会」を、人材育成・情報収集・異業種交流の3つの柱で企画・運営しています。